

〈資料〉

## 「西周日記」

——明治二十七年一月～六月——

川 崎 勝

本稿は、「西周日記」——明治二十六年七月～十二月——（『南山経済研究』第35巻第2号、2020年10月）の続きをなすものである。「西周日記」は、明治二十七年六月三十日で、記述が終わっている。したがって、本稿が、最終回となる。

「西周日記」については、「西周日記」——明治二十年一月～六月——（『南山経済研究』第14巻第3号、2000年2月）の「序文」を参照されたい。

「西周日記」は、年を経るとともに、さらに病状により筆の乱れが多くなる。とくに、今回翻刻では、「五月」以降、とくに判読不明な部分が頻出して来る。したがって、今までにも増して、多くの誤読があると思われるので、引き続き、ご叱正を乞いたい。

本号の翻刻に当たって、前号までの校訂方針を踏襲し、若干整理した。日記帳（半紙版20行罫紙、二折）の上段枠外には、曜日のほか、追記がある。便宜的に、枠外の記事は『 』で括り、曜日は日付の次に、追記は一日の記述の終わりに置いた。また、見消は二重線＝、塗潰しは■、不読文字は□、長文および字数不明のものは□ □で示した。なお、「鯖塩」などの傍点は、西自身による訂正、「塩鯖」の意。「日記」本文には、○ごとに簡条書されており、句読点はほとんどない。読みやすさを考慮して、やや細かく読点のみを付した。旧漢字は常用体、合字は開き、変体仮名は常用の仮名に統一した。また、固有名詞をはじめ、宛字と思われるものは極力そのままに、誤字についても多くはそのままにし、適宜〔ママ〕あるいは〔訂正文字〕を付した。〔 〕は、翻刻者の註記である。〔 〕のない傍註、圈点、括弧などは、原文のものである。

〔付記〕

「西周日記」は、明治十九年までが、『西周全集』第三巻（大久保利謙編、宗高書房、1966年）に収録されている。本稿は、その継続を目指したものである。明治二十年分は、幸い、1998・99年度の文部省科学研究費基盤研究（C）「西周日記の研究」として公表することができた。その後、南山大学在職中、退職後と、一時期の中断を含めて、20年間にわたって翻刻作業を継続してきて、ようやく最終まで漕ぎ着けることができた。

## 「西周日記」

今回終るにあたって、長年にわたって、掲載を許可された南山大学経済学会に心より感謝申し上げます。

なお、のちになって、この「西周日記」明治二十年～二十三年分が、あまね会編『国会図書館蔵 西周日記』（1997、1998、2000、2003年）として翻刻されていることが分かった。奥付には、あまね会は（東京都）文京区立鷗外記念本郷図書館内、非売品、限定30部とある。ただし、これは、「西周日記」原本の所蔵機関である国立国会図書館憲政資料室はもとより、当の国立国会図書館にも所蔵されていない。本郷図書館の刊行であるならば、国立国会図書館法上、同館に納本されているはずである。また、翻刻を上梓するには、所蔵者の許可を得ることと、献本するのが常識である。納本も献本もされていない以上、それは「あまね会」の内部用の草稿（私家版）と見做すほかはない。私は、2014年になって、初めて本郷図書館に所蔵されていることを知り、閲覧できた。その経緯は、川崎勝「翻刻と誤読——「西周日記」の翻刻をめぐる——」（『南山経済研究』第30巻第1号、2015年6月）を参照されたい。この翻刻が公にされていれば、私のような拙い翻刻を続ける必要もなく、本誌を汚すこともなかったのにと悔やまれる。

ところで、あまね会は、近年、その継続として、刊行雑誌である森鷗外記念会『鷗外』（100号（2017年1月）～）に、なぜか明治二十六年八月十四日から掲載が始められている。ただ、初回の冒頭解説を見る限り、明治二十六年八月十八日条に見える、来日中のオーストリア皇太子の大磯駅通過の記事について、妃ゾフィー・ホテクを見た読み込んでおられるが、この時期の「西周日記」の読みにくさに伴う「読み方」についてはさて置き、「妃」の来日の記述は史実に違うことであり、先入観の恐ろしさを痛感させられた。したがって、あえて日記本文の解説の参照は差し控えた。その正否は、ひろく読者に委ねるほかはない。

遅々として進まない拙稿に対して、引用された方々、誤読、誤記、誤変換を含めて、訂正・疑問等をお寄せくださった方々に、御礼を申し上げます。

今後は、これまで判明している新解説をはじめ、誤読等を修正したものを「草稿」として、近々刊行される新『西周全集』の編集委員・編集協力者との検討を経たうえで、その最終巻に収録する予定である。

なお、本稿を引用される場合は、是非、御一報くださることをお願いいたします。現段階での、最良と考えられる修正テキストを送らせていただきます。

# 「西周日記」

(明治二十七年一月～六月)

〔表紙〕  
「明治二十七年甲午日記」  
四  
紀元二千五百五十五年  
西曆千八百九十四年

〔朱印〕  
西  
〔表紙裏〕  
「礼之用」

西 周」

明治廿七年一月ヨリ

一月大三十一日一日『月』晴、雪空也、然れとも未だ降らず、早起、湯に至り洗顔、灌水、其後復座、屠蘇二杯、象煮三椀、御節会二杯、沢庵二切レ、牛乳壺合、其後表便所へ行く、安扶<sub>レ</sub>此を、小水通利あり、本日東方海上三間許の処に墨雲覆ひ、只一抹ノ分割線其間に残したり、其後漸次に薄裂となり、午前一旦晴亘りて白日を觀たり、此時北方また黒雲覆ひ雨を催ふしたり、或は雪降りといふ評あり、但明日は或は変らんと思ふ、如此くにして陰この元日を過したり、

〔横書〕  
『和為貴 / 百歳 / 雲松庵』

一月二日『火』晴、早起、灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、  
〔太〕大陽既に電線<sub>田</sub>四五線之間に在り、先ハ鋸山<sub>口口口</sub>方ナリ、本日ハ江ノ島ノ烏帽岩<sub>(子)</sub>殊に大きく、其後午睡せんと欲ス、舛子電氣を勧む、時雄をして湿電を装せしむ、部位并二個所ハ同し、十時半より始め十二<sub>(時)</sub>に終る也、○午餐ハ根木ノ味噌汁、たらノノ煮付、甲鳥の<sub>口口口口</sub>ナリ、中間裏便所行く、午後三人ノ礼に三嶋へ行く、老夫人に逢ふ、夫より巡查の処、其婦人に逢ふ、夫より駅長二人<sub>口口</sub>二人へ礼、其後佐土原君を訪ひ、取次落合<sub>口口</sub>に逢ひ、<sub>口口</sub>カラスミ礼を申し、午后帰宅、此時に勃平も来訪、御沙ハ乗り後れて四時後に及ふへしといふ、○其後馬寫庄五郎来礼来ル、其入浴潮湯、其後庄五郎来礼来ル、其入浴潮湯、其後庄五郎来訪スト、年礼に来ル、○四時二十四分御沙着、

一月三日『水』朝早起、朝日の昇るを拜す、其前湯に洗顔、灌水、其後就座、屠蘇、象煮、其後表便所へ行く、安扶<sub>レ</sub>之、其後復着座、其後時雄、湿電ヲ装置し此を掛く、部位并二個所同し、其間御沙、大磯町を見物に行く、安、菊兩人此に伴ふ、新婢を伴ひて歸ル、午後ノ歸京に伴はんと成り、○本日年始状送越ス者、亀井茲迪君、永見裕君、岡野東太郎等ナリ、○勃平、お砂、午餐後一時二十九分出立、本日時雄も返る由、○昨日より大磯町にて、たこを揚るを見る、○本日も烏帽子岩能く見ゆ、○本日午後百足屋年礼来る、屠蘇を出ス、○同時に角半ノ夫人来る、依テ為吉の妻

「西周日記」

女子を生ミたるの話に及ふ、其尾に就て百足屋か其弟ノ子三才なるを養はんといふ、  
○本日寺ノ鐘を撞くこと頻りなり、此大磯ノ非例報なる由、本日も晩来烏賊釣船夥  
多出つ、暫くありて皆散し去る、晩間ハ灯火ニ而見事なるへし、○為吉も子を設け  
たりしとの老夫人の話にて、角半ノ夫人の話にて、顕はれたり、○時雄は五時  
三十五分より東帰、  
〔下欄外、以下同〕 △

一月四日『木』半晴、海面上三間以上黒覆の雪空を顕せり、早起、灌腸、通利あり、  
其後湯殿に至り洗顔、灌水、天気模様未定なれと、江ノ寫沿岸兜岩、烏帽子岩ハ一旦  
能く見へり、就座、麵包一切、牛乳壺合、其裏便所へ行く、小水急遽ナリ、殆ど漏  
れん欲す、其後再び裏便所へ至りたり、此灌腸故に通利屢となるなり、出てす、直  
ニ湯殿に至る、○午餐ハ鴨の吸物、粟象煮、根木の象煮、跡ニ而白飯二杯ナリ、了  
て起て裏便所へ到れと、睡に就く、三時三十分入湯潮入湯、○本日は雪も雨も降ら  
されと、夕方まで暗黒寒かなり、午睡<sup>〔ママ〕</sup>中、門前悦ひ済む、何時之通り壺円を遣  
はす、家人皆夜霰降ると云ふ、今日之地震にてハ左も有りなん、明日起る時ハ如何  
あらん、

『一時三十分頗ルの地震あり、』

一月五日『金』朝起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳一合、其後  
裏所へ行き小水通利あり、○本日ハ習風ニテ寒気甚しけれと、江の寫、烏帽子岩ハ  
能く見ゆ、其後睡、起裏便所に至り小水一過、其後就座、新年悦詞、寺西、寫田、  
下門、三軒ノ年始状書き、後午餐を食す、第一しるこ二杯、白飯□□いわしにて白  
飯二杯を食し、○本日も雪日なり、○三時前きよ子突然来る、岡君の病気を気遣ふ  
なり、○午後より雪降り出ス、○夜中□□□□アリ、

一月六日『土』早起、灌腸、通利アリ、了て其後湯殿に至り洗顔、灌水、其より就座、  
麵包一切、牛乳壺合、其後為吉潮水を酌ミに行く、○本日の天気ハ昨日の反体にて  
北風なれど海岸へ向ひて吹きたり、其後裏便所へ行き小水通利あり、○舂子、きよ  
子、皋を達り款冬花を得て此摘□し、其後きよ子入浴潮湯、其前余高麗飴を食ふ、  
其後菊湿電を装し此を掛く、十時より十一時に至る、○本日江の寫ノ烏帽子岩能く  
見ゆ、十時頃薄日の射す間ありしに、暫くして海面亦曇り夫より海鳴を始む、午時  
となる、○午餐ハ牛の味噌汁、この腸、<sup>〔蒸蒸カ〕</sup>の差身等なり、其後加藤君来ル、暫く  
話し茶を喫して去、此瀛車にて帰東之由ナリ、お舂ハおきよを送りに行き、未だ帰  
らず、帰らハ入浴之積り、おきよハ塩湯□□へし、為吉上蒸して暫く薄めたりしと  
いふ、晩飯ハこの腸<sup>この</sup>に白飯、猪肉□□□□ナリ、  
〔下欄外〕 中止

『夕方返照に燦虹見ゆ、横須賀沿岸に当る、』

一月七日『日』早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、牛乳壺合、餅の粥三椀、其  
後表便所へ行く、其後百足屋及ひ角半に年礼<sup>賀</sup>にむかひたれと家人頻り止めて、明日  
出掛ケに為すへしといふ、依而其意に従ふ、明日に延はず事に極めたり、其後菊湿

電を掛く、部位並に個所ハ尋常の如し、晚餐ハ鮭魚、南郷いわし、猪肉等ナリ、一月八日『月』早起、灌腸通利あり、其後至湯殿洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳<sup>〔乳〕</sup>壺合、其後本日東京行を止むると電報を出ス、○おきよからも電報あり、又こ風気<sup>〔乳〕</sup>のよし、行かざるも仕合なる可し、其後裏便所へ行く、小水通利宜し、其後菊湿電を装して此を掛く、能く利きたり、部位并に時間ハ尋常に同し、○本日の天気ハ北方深青にて、東方靄ノ為に明かならず、南方ハ能く霽れたり、西方ハ分明ならず、江の島南岩も僅かに見ゆ、○午餐ハ為吉子誕生の赤飯、此城の味噌煮等なり、飯、裏便所小水行く、通利沢山、今朝きよ子への電報の外、きよ子より書翰、病気は瀬脇の診察を受けしニ一時の病気にて体したる事に非らずと、其外羽田の寡婦人と春岡熊子と伊東富子との三人より年始状来りしとあり、其後入浴潮湯、揚て仮りに午睡に就、暫くして起き、再裏便所へ行く、小水通利あり、入湯の間北方深翠の部少く白雲を帯ひたるを見しが、出浴後此を見れ其白雲黒雲に変、東方海上まで漫延し一黒雲□□を醸成せり、本日の晴移急遽なるに由る歟、其後返照例の如く餐爛たりしか、遂かに電光<sup>〔雷〕</sup>燭色電鳴起る、此一度ならず二三度あり最終と覚へ、また電鳴曾々、唯其海上虹の如く照返と共に滅ス、凡て房州松見崎<sup>〔細カ〕</sup>辺□電数度にして虹も一時見へたり、書状にて此八日の夕を終るなり、人定後猶数度雷鳴殷然たり、

三月九日『火』早起、観象の後、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、其後湿電一回、菊此を主管ス、中間裏便所へ行き小水通利アリ、後湿電を了ス、部位並に箇所も尋常の如し、但薬故にして利薄し、○本日の天気ハ初に雨あり、中間日光漏れ、其後再曇天ナリ、但海上二間許の処に曇雲鼎れり、夫より上も一面の曇天にして、雨か雪か降らんと欲ス、只北方一二個所の虧裂を見ゆ、午前に見た<sup>〔カ〕</sup>ル虧裂北方に在りたるニ、午後変して曇天となり、午前に横須賀背面沿岸ハ模糊なりしが、午後ハ皆見ゆるハ本日の晴を見るハ南方より白雲ノ競ひ来るを以てなり、故に南方より山壁を越へて来り、海面上に接スル故に、斯る模様を醸成するなり、○本日午後亦雨を見る、○午餐ハ南郷鱒ノ甘乾に白飯三椀、裏便所<sup>〔雷〕</sup>に行き小水通利<sup>〔ママ〕</sup>単<sup>〔カ〕</sup>干<sup>〔カ〕</sup>成<sup>〔カ〕</sup>別<sup>〔カ〕</sup>に嗜好に、午睡に就く、睡醒テ忽晚餐ニ及ひたり、晚餐高木鮭ノ蕨芋ナリ、別嗜好無し、一月十日『水』好晴、朝起、灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳一合、其後裏便所へ行き小水通利急なりし、其後菊湿電を装し此を掛く、新薬にして能く利く、○本四方深翠色、一点ノ汚点無し、東方海上穏なり、為吉既に海潮を酌ミ来る、其後午餐鱈飯三椀、白飯一椀、餐後裏便所小瀉沢山なり、晚餐ハ鰻鯉、言分無し、入浴潮水、後百足屋へ年礼ニ行き角半までハ立寄らず、帰後鰻飯に就く、<sup>〔欄外下〕</sup>『漸くにして調を為ス、』

『夜七時頃相応の地震あり、』

一月十一日『木』早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、其

「西周日記」

後裏便所へ行、小水通利あり、其後菊湿電を装し此を掛く、旧薬なれと能く利く、部位個所ハ同し、○本日高麗園へ行かと思ひ早朝より相談す、○本日浜の漁夫連ヤンヤコトコ(ナ) ツを催ス、十時浜に火を焚く、○其後裏便所へ行、小水通利あり、電気の勢なり、○本日年始の賀状を差越しハ、吉村泰得、大野富雄小樽港町第二十国立銀行より、並にきよ子より書状あり、此は年始状にあらず、自身病氣インフリュエンザも大きに快方ニ赴く由ナリ、○本日も亦江ノ鳶の烏帽子岩白蒼海上にて屹立スルヲ見る、○午餐ハ□米柵木ノ餅三椀、白飯一碗、めこち、堅魚ノ刺身一皿等也、此より直に高麗園を訪はんとす、供ハ舂子、為吉、金太、安、菊、○午前時事新報来る、○高麗園にてハ飯も食ひもせず、酢(酢、以下同)二切、牡丹餅二ツ位の事にせり、金太も同前、高麗園にてハ尿をせず、帰宅ハ三時過ナリ、帰来方向を見れハ南風ナリ、故に家人其温暖なるに驚くといふ、帰来見れハ、ヤンヤコツコ(ナ)ノ標、標目前に在り、(二重書)樹□ノ直に左ノ□□大樹左方にあり、

一月十二日『金』好晴、北風、朝灌腸、通利アリ、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、其後表便所へ行く、小水通利あり、安此を扶く、其後菊湿電を装し此掛く、部位等同し、十時の瀛車にて豊住好、周五郎を侍れて来り、○再び表便所へ行く、湿電ノ勢ナリ、正に小学校の生徒体操中なり、○午餐鰻鯉(衍カ)の飯飯、お舂、好及周五郎を停車場まで見送る、三時半出る、○其後裏便所に行くの後入浴潮湯、時に四時過ナリ、晚餐ハ午の鰻鯉飯、好のゑひ等ナリ、其後裏便所へ行き、寝に就く、

一月十三日『土』朝半晴、十時頃より漸次快晴に赴く、朝湯殿洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳壺合、其後裏便所へ小水に行く、通利あり、其後菊湿電を装し此を掛く、部位並に個所も同し、○本日もヤンナコツ(コ)ツノ標、北風に柵引けり、凜然タリ、○本日は江ノ島南岸ノ烏帽岩屹然タリ、○本日の天候ハ北方ハ正翼変し南方に白雲を輸出して峯山を越へて東方に至りて消滅せり、午餐ハ鯖ノ酢、ゑひのかつろノ振り掛けなり、食中裏便所に行、小水を漏らし、再び食に就く、食了て寝に就く、晩飯鯖の酢、焼魚のほくし身、味佳ナリ、四椀程、

一月十四日『日』朝灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、其後湿電、菊此を主管ス、半途にして裏便所ニ行く、小水通利沢山ナリ、且此時髭を削る、其後湿電を了ス、部位個所等例の如し、□□なれと頗明日東京へ持参、直しを加ふへしと、時正に十時国府津の三番来ル、○本日ヤンナコツ(コ)ツを取り除く、河原に也、○本日十時十四分時雄来ル、諸□の来翰を以来たり、午餐を振舞ひ折節鯖飯あり及鯖の肴を以て、きよ子ハ既に牀揚済ミたりといふ、本日恩給愈々御渡ニ相成由ニテ、時、其為に来りしなり、明日ハ帰れ□□□出府の日なれハ都合宜し、時雄、ヤンコツコ(ナ)を見行く、□□□□之瀛車□□□□、

一月十五日『月』晴、東京に向ふ程晴に隨なり、十時降り瀛車にて東京に至る、十二

時過到着、途中別段ノ事無し、三十軒堀〔開〕に至れハきよ子も居らず、昨日夜四時より岡より電報達し、直ニ岡氏に到りし様子なり、即山本ノ恩給局より婦〔待〕を持ちて、岡へ様子ヲ聞きに遣ス、既ニ寂滅の由、実ニ人間ノ死亡程憫れナルもの無し、舛子ハ高木に行き、瀬脇へ行き、其後恩給ノ礼として越後屋より、佐野、及送家に到りしか、夕刻まで帰らず、思ふ佐野にて馳走共成り哉、○晚餐ハ汁粉等ナリ、別ニ豊住の長老〔ほぐカ〕ノぼくし身もあり、腹満腹なり、食了て二階に昇り寝に就く、

一月十六日『火』晴、早起、灌腸、通利無し、水計り也、後を期して差置く、夫より湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶ノ間ニ而麵包一切レ、牛乳一合、其後表便所へ行き通利あり、其後岡へハ行く事を止む、伊藤総理、末松恩給局へ□□□□□、皆代理を遣ス事に極む、○舛子ハ十時より岡へ家族を見舞に行く、昨日岡より、杉山喪主、浦太郎、鈴木斎弼ノ連名ニ而死没ノ報知を受けたれば也、金太は日向を喜び楼上を嫌ふ故に一度来れと再び下へ降て、午餐ハ山本に鯨長崎料理にして振舞ひ、了て内便所に行き小水通利あり、其後楼に昇り、お沙来ル、牡丹餅七ツ余に七切食ひ、お沙帰ル、高木、瀬脇へ立寄り、岡へも舛子の手昏を持ち弔礼に罷越し、勃平ハ扁豆腺炎ニテ本日来り得ざる由なり、お沙代て、高木、瀬脇に到るといふ、其後佐野お繁さん来り、反物ハ拝受すれとも金は返納スト云ふ、午時寒□□□□持参したり、一月十七日『水』晴、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶ノ間にて麵包一切、牛乳壺合、其後表便〔所〕にて小水、梅〔梅〕此を扶く、其後昇楼、再び裏便所〔所〕に行く、菊此を扶く、本日朝恩給頂戴ニ付、廻礼ノ件を山本をて三浦知事に聞合せたる所、別ニ廻礼に及はずいふ、故に執事を代理に命する事をも止めたり、但し執事〔此〕を猶山〔県〕白〔白〕卿へ礼に出ス、山本十二時前帰宅、御念ノ入りたれと事ナリト答辞ヲ得タル由ナリ、○本日午後灌腸、通利あり、入浴するを以てなり、〔ママ〕 晩間瀬脇寿人君来診、きよ子、舛子〔衍〕子、余ト三人なり、

一月十八日『木』晴、朝湯殿に至り洗顔、灌水、菊扶此、下ル時、元に御負したり、其後茶ノ間にて麵包一切、牛乳壺合、其二階に登る、其後瀬脇姉年始に来ル、有合菓子〔衍〕を供ス、其後清水格亮君年始に来ル、菓子并ニ葡萄酒を供、二杯飲て辞し去る、午前ナリ、午餐ハさあらの塩焼、海老のほぐし味、其後中間にて表便所へ行く、其後上楼、未だ何事も無し、きよ子ハ父の葬式に行く、舛子も亦岡の葬式に行、午後一時出棺ナリ、其後相沢朧君来ル、岡へ弔礼に行きしたりと見ゆ、其後夜食をなして帰る、夜に入る、其後きよ子も帰る、本日は猶岡に居る由なりしが間もなく帰る、夜中鈴木御者菓子〔衍〕を以新年の礼に来る、晚餐ハ玉子鎖、さ〔鯖〕あらの塩焼なり、

〔下欄外〕  
『○不出来』

一月十九日『金』晴、本日礼用も了したれハ亀井家始メ廻礼に行かんとす、早起、灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、菊此を扶く、帰路元此を脊負ふも脚し際十分ならず混雑あり、灌腸の時も済際混雑あり、餐後、後表便所へ行く、小水通

「西周日記」

利なし、併て樓に登る、 其後高木お富さん年礼来ル、此時通利あり、随分長談ナリ、おきよハ父の墓に行く等ナリ、遂に年礼ハ午後となす事に決ス、則ち亀家ニ到る、時正ニ二時過ナリ、猶早きを覚ふ、舂子の創意にて序に向嶋の清水を済まさんと決ス、遂に亀井の□□東橋を過ぎ向嶋に到り清水に到る、車を下りて主人を訪ひ、主人夫婦皆無事なり、然ルに此事苟急に出たるを以て、実は清水家内より先報を望ミたれと此と贍振して至りたる也、亀井家にては大岡に逢ひ、吉松に逢ひ、御菓子を頂き、奥方に礼を述へて、いと十分なり、

一月二十日『土』晴、本日は歌舞伎座に行く、舂子、菊同道、夜十時返る、菊五郎芝居なり、○きよ子ハ芝愛宕下青松寺へ行く、贈物、周及び舂子、子、別となり、此も大凡同時に帰宅ナリ、本日之事ナリ、□□を食ひ□少く□に□ナリと覚ゆ、『本日より大寒となる、夜農商務内火事あり、暫くして消ゆ、』

一月二十一日『日』朝灌腸、其後入湯へ至り洗顔、灌水、其後元に負はれて茶の間に帰、麵包一切、牛乳一合、其後昇樓、裏便所へ行く、本日十時より河上乙次郎之座ニ行く、本日も菊を供とす、○此頃ノ話に紳六郎ハ既ニ□□□□□□□□に返りたりと、孟<sup>(實)</sup>売<sup>(實)</sup>まで帰りたりと、

一月二十三<sup>二日</sup>『月』晴、本日は回礼ニ而終日、初大築保太郎君午餐まで差出したり、次に勃平の処にて午餐を喫し、小便に行く、次に上領氏ニ而饗応あり、次林老人処ニ而紳六郎の談あり、次ニ岡氏を訪、先日の悔ミを述へ、岡守節君の死去を悔ミ、碁の相手を喪たりと、次に帰宅後入浴、百足屋来ル、足疲る、甚し、次昇樓、床に就く、春日灯<sup>(籠)</sup>の直ハ明日受取へしといひたり、次に西脇悌二郎の年始状を受取る、

一月廿三日『火』晴、本日百足屋金三十円山本へ渡し置く、春日雪見灯籠ノ代なり、只今二十銀行より百円受取り返る<sup>たる由なり</sup>、山本に渡し置く、舂子ハ本日十時より黒田へ行き、佐々木信綱へ行く、○慎思郎の処に一二才の女兒死去の由なりと、○昨日留守中、亀井<sup>正四位</sup>從四位殿年礼来らし由なり、御菓子の土産あり、○また堀礼造君より焼年魚及糠漬年魚の贈あり、幸に從四位殿より賜物を其礼とて遣す由なり、○本日朝、きよ子ハ父の墓参并ニ岡の母を見舞に行きたり、○入江文郎<sup>石碑を</sup>ノ碑<sup>新次君</sup>、辻真次君より入江文郎ノ石碑石構<sup>(實)</sup>を贈り越したり、○吉村君より奥津鯛を費<sup>(實)</sup>ひたり、夜中明日大沼<sup>磯</sup>へ不帰事ニ決ス、○其後林洞海君年賀に来ル、死瓶ノ談あり、是より早速調へたり、

『榎本復職、農商務大臣となる、』

一月廿四日『水』朝起、塩湯を喫し、其後表便所に至り小水通利あり、其湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶の間に麵包切、牛乳壺合、再ひ表便所に至り小水不通ナリ、則ち不通なるに、二階に昇り官報二十二日分読し、通利あり沢山なり、少しく溢る、○其後きよ子墓参并ニ母ノ処へ行く、其後佐々木信綱の弟信綱来る、舂子出て是に逢ふ、本日午前大築保太郎君、また亀井家大岡恕乎君と年礼に来ル、



一月廿五日『木』早起、湯殿、元脊負にて到り、菊之を扶けて洗顔、灌水、其後茶の間に帰り麵包一切、牛乳壺合、其後表便所へ行く、小水不通なり、依而直に昇敷、○本日ハ朝より雨なり、依て帰磯ハ明日と決ス、呉鎮府所管吉野一月二十三日コロ<sup>ボンバイ</sup>ンポへ向ひ孟買拔錨之事官報を訳、紳六郎の事丈、其後入浴淡水、帰りて状受る、時岡野周吉不容易の状也、状相沢朧君より書状来る、

一月廿六日『金』晴、西風強し、早起、湯殿元の脊中にて至り、菊此を扶けて洗顔、灌水、其後元の脊中ニ而返る、茶の間ニ而麵包一切、牛乳壺合、其後表便所に至り小水通利あり、○本日十一時四十分の瀛車ニテ帰磯と決ス、二時十分大磯へ着、此時小水満溢、若松屋ニテ立なから小水を済す、菊後裾を据へ居る、此ニテ為吉始終手を引き居りに其後為吉脊負ひて岡を越し内園より止座、○本日帰着後、永見裕君より石狩川産ノ鰯<sup>(鮭の誤カ)</sup>卵子を差越したり、

一月廿七日『土』半晴、本日日光を觀たり、然れ一般に曇天なり、早起、湯殿に至り安扶<sub>レ</sub>此、洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳一合、其後表便所へ行く、安扶<sub>レ</sub>此、時八時なり、其後菊湿電装し此を掛く、此時九時瀛車至る、其後再表所へ行く、安扶<sub>レ</sub>此、時十時ナリ、○本日目白鳥を買ふ、昨日死したればなり<sup>(二重書下不説)</sup>□□□□、為吉□子を掛けたり、午餐ハ沖鰯の煮付ノ□□□等ナリ、其後百足屋来り昨日の礼を述へ庭に降て春日雪見居所を選びたり、其為に植木屋数人を連れ来れり、其前表便所へ行き小水通利あり、其後余ハ午睡に就く、○今 午後山本恩給証書之事就書状を差越ス、夫故明日為吉を東京に遣はス事に定む、百足屋ハ夕方まで園中に居て雪見<sup>(龍カ)</sup>春日兩灯灯事を看視怠らす、夕方まで掛る、

一月廿八日『日』本日恩給証書を送る為、為吉を東京に遣はしたり、其数日の宿屋費を払ふ為、早朝灌腸を為したり、其後湯に至り安此を扶く、○本日寒氣殊に甚敷、湯殿敷板は氷りて滑走せんとす、遽に縮む可らす、貯水も皆氷れり、池水もまた氷れり、大好物の鰯魚ハ皆売れたり、○本日も植木屋人足とも三四人来れ、百足屋ハ昨日にて終たるか見へず、其後菊湿電を装して此を掛く、個所并に部位ハ同、能く利きたり、後鰯売り来ル、十匹ニテ十一錢五厘といふ、○本日恩給証書も併せて、来ル三十日孝明天皇御祭典に病氣参内難仕旨認メ差出し、錦雞間祇候西周と認メ差し出したり、○おきよハ留守の由、恩給証書は時雄より受取を差出したり、山本は金太を掛けに行きし由なり、昨日も麴町へ参りし処、掛合亦交合せず、其故本日再ひ参りし事と見ゆ、午餐ハ大鰯の酢熬にて、石狩川の石狩川産の□鮭ノ卵<sup>(鰯)</sup>子等ナリ、勃平は昨日岡へ悔に行き様子なり、お沙等に事に就而分明ならず、○午睡中林若吉来る、先達之礼なるへし、松本良純の処に居る由ナリ、

一月廿九日『月』本日早起、表便所行き小水通利、其前塩湯を喫す、其後安扶けて湯殿に洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳壺合、了て表便所へ行き小水通利あり<sup>(二重書下不説)</sup>□□、此時しこを売来る、○本日も早朝より植木喜七来り、草木に寒肥を遣ル、

「西周日記」

- 本日も曇天寒し、○ ○午餐ハしこノ□酸熬、焼飯等ナリ、□□にて満腹に至りたり、○植木屋ハ主人喜七、大光祖父の子、子宝等来ル、午餐了て午睡に就く、尤午餐前湿、睡に就く、部位個所同しといふ、掛手菊なり、午睡後起て見るに、海上深霧中烏賊舟数艘を見るのミ、寒くして死せんとす、○晚餐ハしこの酢熬に石狩川の鮭の卵なり、満腹、七時<sup>(二重書下不読)</sup>□□□□小水を待つ、
- 一月三十日『火』本日孝明天皇祭日、起、灌腸に従事ス、水計ニ而糞出、す、其後安扶湯に至り洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳壹合、其後菊湿電を装し来る、是を掛く、其後表便所へ行く、菊扶く、此、本日魚屋鯛計ニ而しこを持たず、故に鯛の焼物と極む、また昨日の手昏に山丘屋まで麴町へ連れ行きたれと、却而雄に咬ミ附き交合せざる由たれば、金太ニハ春の彼岸迄見合す事に決ス、○本日ハ晴といへとも、薄日少く射したる迄ニ而判然せず、国府津も三番まで来りたれと、東方海上北方ノ海とも薄日なり、○本日ハ□□沙を庭に入たりと□□沙を量りて庭内に暄し、○本日午後入浴潮湯、随分久振なり、了て国府津瀛車通過ナリ、其後しこを見せに遣に、しこ無しと申来ル、其後表便所へ至り小水通利あり、晩飯ハ鯛ノ根木ぬた、□□□、鮭の子、白飯三椀、□□□干物もあり、
- 一月三十一日『水』半晴、昨夜風吹き、雪降り四望皚々たり、本日初て雪なるを弁す、十時頃より日光を見る、本日朝湯飲ミ、<sup>(瀧カ)</sup>其後表所へ行く、直に湯殿至り洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳一合、了て表便所へ行けとも小水出です、菊電気を装して此を掛く、了て裏便所へ行く、乃ち小水通利あり、本日習風、東南際海上曇て見へす、北風薄晴なり、○本日大工辰五郎を雇ふて表便所ノ障害を除きたり、午餐ハしこの酢熬ナリ、他清水煮等ナリと、○天気午前晴模様なりしが、午後変体にて曇雲巻出し中点このノ晴雲あるのミ、東方も南方より前岡を越へて白雲を送る故晴相もなし、午餐後表便所□□まで一睡と極めたり、本日午睡後起て見るに未だ煤冷調はず□□<sup>(カ)</sup>本手水場へ行くへらすといふ、大工と其弟子来り、二枚障子の処に穿ち□を成したり、
- 二月一日『木』好晴、早起、塩湯を喫し、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其安扶けて座に就き、其後麵包切、牛乳貳合、其後小水ノ通利怠りたり、其後菊、湿電装し部位個所ハ同し、了糞して小水ヲ催ふし表便所へ行く、菊、電気の序を以て此を扶く、○本林翁<sup>(日)</sup>より綏七郎君より根室より送り越したる鮭のすしを裾分せり、昨日之水交社の左右に紳六郎杯ハコロソボに至り、直に抜錨し他に行きたる由なり、到りし処ハ未だ分からず、定て追々近所に至りしなるへし、○本日十時ノ瀛車にて金太も帰る由、本日ハ快晴なりと雖も、南西ノ岡ヲ越へて海上に帰往する白雲あり、其故追々のなか□□同し也、○本日午餐林翁綏七郎よ□□受けし鮭の親子酢なり、風雅ノ物といへとも満腹に至らず、午後ハ天気も表裏ニテ、北方ハ白雲、東方も白雲多多、

此山岡を越へて来り通る所なり、西方も曇雲となれり、朝為吉の酌たる朝水晩く湧して水なり、天気も反対にて悪天気なり、

二月二日『金』早起、塩湯式喙を喫し、表便所へ行き、直に一寸復座し、湯殿に到り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、乳牛壺合、其後舂子、二番瀛車ニ而豊へ往く、其後余便所へ行く、小水通利あり、其菊電気を装して此を掛く、能く利く、其後第三国府津来ル、○本日の天気、初曇天なりし□□□、午前に北方東方快晴となれり、午前北方ハ正翠色、東方海上ハ白雲嶽峯を越ス状をなして次第に消滅し、南方西方も風に依る可しと思ふ、午睡後海上を見、明<sup>〔朝カ〕</sup>□朝市の□粧を呈し朝毫も朝焼の色無きか如くならず、明朝、本日海上白帆列を為して出て、両ニ相並て烏賊釣り船の如し、晚餐ハ鮭の卵等なり、跡ニテ林ノ酢少し、豊住投薬ス、海上白帆□舟多し、二月三日『土』朝、湯ヲ以テ丸薬七粒ヲ服シ、夫了灌ニ従事シ頗ル通利アリ、其後湯殿に至り洗顔、灌水、復座、麵包一枚、牛乳一合、其後表便所へ安連れ参り小水通利、其後電気を装し此を掛く、部位并個所ハ同し、其後林友幸君へ、三月九日両陛下満二十五年御銀婚に渡ラセラル、ニ付献納品<sup>〔衍〕</sup>ノノ事ヲ宮内省之官□司へ托シ、別林友幸君へ托シタリ、○本日の如き上好の天気といへとも、白雲尚東<sup>〔衍〕</sup>の海より霧散して、正に大磯の林岳を越して大磯湾になふきて平常の事なりと覚ゆ、其後ハ本日余南担に抱せ後より追及ふ白雲を見たり、此時北方ハ正翠色、東方ハ<sup>〔衍〕</sup>海上白霧多し、雲ハ西方共霧多きに違なれれとかゝる希置ハ其地の良能とも謂ふへきか、其後裏便所小水なしたり、○午餐ハ林の鮭酢、鮭の糠漬、しるこ汁三杯等ナリ、本日の海水浴ハ宮様御通行筋等蠟を流かす等の諸礼之故障ありしか、遂に海水浴に至りたり、一睡醒、海上を觀れハ白帆点、陸上之□□表屹立して他無し□□□、『節分、／昨夜七時頃長キ地震あり、』

二月四日『日』本日祈年祭班幣、本日ハ雨りもせず照りもせず、縞様の組織より漸次消滅して率晴に赴けり、尤北方ハ深翠色下白雲棚引けり、東方ハ深霧にて十時後猶霽れず、南方霧の如くして漸次に晴に赴く、○本日早起、朝塩湯を喫して、其後表便所に至り、其より湯殿に至り洗顔、灌水、其より復座、麵包一切、牛乳一合ナリ、表便所行、小水通利あり、○十時国府津瀛車来ル、○午餐ハ鰯ノ着焼、林翁の鮭<sup>〔鮭カ〕</sup>の鮭なり、此分尤も良し、○午餐ハ鰯ノ焼物、林翁の鮭鮓等なり、尤も鮭の酢極めて良し、其後表便所へ行き小水通利あり、其後暫く就寝、

二月五日『月』早起、塩湯を喫し、表便所へ行き小水通利あり、其より例の座に至り灌腸を行ひ、水計ニ而通利僅かなり、昨夜より丸薬七粒を服し、折角支度をなし試したれと甲斐無し、即ち湯殿に到り洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳壺合、其後表便所へ行く、小水通利あり、其後菊湿電を装、此を掛く、利し薄し、明朝より新薬を用ゆるを約し、○為吉朝海水を酌ミ来ル、菊座にて速に湧かさしむ此を、□□前岡にて招仙閣の写真を写す、○此時□十時東京二番来る、暫くして□□□潮湯湧

「西周日記」

- くを報、不慮ナリ、然れとも入浴潮湯、了て寝に就、○午餐ハ為吉ノ祝ニ而赤飯、  
いわしノ酢熬等ナリ、一睡後、弥重剛矣君来訪、□母東京出發行中となり、  
二月六日『火』早起、本日ハ安の弁に早朝塩湯を進めす、早朝表便所に行く、其後湯  
殿に到り洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合等、其後裏便所へ往かす、其  
後菊湿電を装し此を掛く、部位並に個所も同じ、其後裏便所へ行く、小水通利沢山  
なり、○午餐<sup>〔二重書下不読〕</sup>□□ハ□□卵子和鯨の味噌汁等なり、○晚餐ハ鰻鯉の約束なり、此  
にて明潮湯ノ為灌腸をなす積なり、  
二月七日『水』薄晴、早起、灌腸通利あり、其後湯殿に到り洗顔、灌水、其後就座、  
麵包一切、牛乳一合、其後表便所へ行き小水通利あり、其後復座、湿電菊司管此、  
其後□□売り来る、此を買ふ、○本日为吉、朝海水を担ひ来ル、○前岡に写真師来  
ル、○西時雄より郵便にて母の病気快方なりと報す、また木挽町に理学教師ありと  
報ス、○本日は大磯小学校調法となり、○午餐ハ鮭ノ卵、外牛蒡ノあへ物、林ノ鮭、  
式椀、味能しと食したり、其後忽ち下痢を發し、裏手水場、湯殿に至るまで尿だら  
けと成れり、此にて一通り了シたり、○午後三時半潮浴海水湧く、入浴後加藤照磨  
君の夫人来ル、出て、此に逢、姑く談して阿部川餅を喫して帰る、時既ニ三時半な  
り、舂子等入浴せず、此より入浴すへしとなり、○周ハ加藤<sup>〔倍川〕</sup>附合ニて阿部餅<sup>〔倍川〕</sup>三ツを  
食ス、また国府津の瀛車来る、○本日ハ雨降る、  
二月八日『木』昨夜ヨリ雨、本日も久振の雨、湿気甚敷、北風を交へたり、本日好よ  
り急用届き、此間の太田某大隊長及び中隊長□連名して事を□いふことになり、本  
日九時四十八分の瀛車にて東京へ行くことになりたり、何れ第二十銀行へ行き、慎  
思郎と相談する積にて出掛けたり、帰路ハ何れ夜に爰入る可しと思はる、○本日暴  
風雨、海上も暴し、○午餐ハ安口ノ汁、高木の獵乾等なり、舂子帰り、別に鰻鯉も  
取る□□□□ふ、○昼は雨止ありしか、夕方より再雨り出したり、漸ニてきくを説  
附て鰻鯉にしたり、  
●<sup>〔日〕</sup>●<sup>〔金〕</sup>九二月『未』早起、灌腸を行ひ通利□□□、其後湯殿至り洗顔、灌水、其後復座、  
麵包一切、牛乳壺、其後舂子□□林□賀にて豊住へ行く、其後表便所へ行く、小水  
通利あり、其後就座、紳六郎地中海マルタより十二月二十九日に出ス書状を見了、  
其後好当月七日發の書状を見る、是ニ而今朝仕事を了る、其後午餐喫ス、午餐鮭ノ  
子糠漬、生乾の鯛ノ子即しこの乾したるなり、其後表便所へ行く、小水通利沢山あ  
り、此時舂子帰る時刻なれと、国津府<sup>〔ママ〕</sup>ノ瀛車先に至りたりと見へ、其□ノ□□□行  
くたれハ、其次なるへしと思ふ、○本日之天氣ハ従来之反体にて、北方ハ正晴、東  
方従来山岡を越へて曇天を發す処、本日ハ山岡を越へ海黒となり、明日より青天と  
なるへし、南方ハ猶□□せさる部分曇雲なり、午後一時、舂子、横須賀より帰宅後  
□□□ノ如し、亦習風吹き南方ノ雨天未だ全く尽きず、半海上減し半残れり、○本  
日三嶋より御振扶ノ御残りとして鮎□の酢を到来せり、晩飯ハ其外の酢、鯛ノ干物等

- なり、□是ニ而本日□□□明日は江鳶ノ□ナリ、
- 二月十日『土』晴、本日東京に行く積り、九時五十八分瀛車ニテ、□□□下女安ナリ、大磯よりハ神戸辺の夫婦との同車したり、川崎ハ十二時過ぎ、横浜にて多少の客増しニなるに□□時□□□□□□来り□□□□着 □□□□□□睦魚之味噌汁なり、又亀井公証書在り□□□□□□、きよ子ハ父の二十一日祭ニ而、午後岡へ行く積なりと、出前出に八代、松本来ル、皆紳六郎ノ近者たる者なり、千代田はシグポールへ無難に着たる由ナリ、
- 二月十一日『日』まづ晴、早起、灌腸、湯殿に至り洗顔、灌水、其茶ノ間にて麵包一切、牛乳壺合、其後表便所行き小水通あり、其後二階に昇り、其後再び灌腸、此度は水計ニは無く軟便なれと通利ありし、是□時正二十時過なり、此度は腸合宜敷と覚ゆ、○天候ハ曇天なり、午前郵便来ル、其後勃平は□□来ル引率ノ由ナリ、□□□□(以下、十三日条冒頭ニ二重書)鰻鱈飯□□□□□□、
- 二月十二日『月』暁雨らん、本日春木座に行く、~~お沙、お舩、安遊~~ふ、本日ハ違ひ明日の由ナリ、早起、湯殿に至り洗顔、灌水、返而茶ノ間ニテ麵包一切、牛乳壺合、未た了て何れも行かす、佐々木慎思郎来ル、此時昇楼、此に接ス、忽ち帰る、○其後裏便所に至り小水通利あり、○本日織田一君洋行ニ付、絹の半毛チーダースヲ贈る、舩子自ら持参、其後余下りて表便所に行く、○慎思郎君より北海道狐の皮二枚を贈り呉る、及び鮭の石狩川糟漬、乾卵、到来スナリ、午餐、表便所へ至り小水通利あり、其再び昇楼す、此時灌腸、通利あり、
- 二月十三日『火』晴、本日春木座へ行く、周、舩、安、お沙、四人、
- 二月十四日『水』晴、本日又新声館に行、おきよ、梅、安、人力、周之五人なり、午餐を喫し二時過帰る、お舩、お沙と共に相沢氏へ行く、岡野周吉ノ土産あり、また岡より三十五日祭事ニ付、
- 二月十五日『木』晴、風あり、雨なる可し、早起、湯殿、其前灌腸、通利あり、其後湯に至り洗顔、灌水、帰て座に着、麵包一切、牛乳壺合、其後表便所に行く、小水不通ナリ、即ち昇楼、今に至る、楼上にて裏手水所へ行く、小水通利ありたり、○本日安、宿へ行く、馬喰ふ町ノ辺なり、其後舩子ハ瀬脇姉を問訪ス、留守に困却甚し、
- 二月十六日『金』夜より帰磯と決ス、此日小水不通なりしか□ 表便所ニ而通利あり、尤白飯を喫ス、本日領掛毛皮出来ス、○本日雪降る、東京ハ左様なれば南に来る徒漸く晴曇天に、着三時前なり、着後入浴潮水、○八重、剛矣、本多へ手昏を差遣ス、先日の往便なり、午後ハ薄日になりたる、明日は判然快晴なる可し、海上白帆七八隻なり、南方より峯なかはを越フハ依然たり、
- 二月十七日『土』好晴、早朝灌腸、通利少し、其後湯殿に行き洗顔、灌水、其後復座、麵包一切、牛乳壺合、了て其後湿電、菊之を主管して一回、部位個所ハ同じ、了て

「西周日記」

□□て表便所へ行く、小水通利沢山なり、○本日の天候ハ東南方より北山乃チ亦山を越へて東海に霧するなり、午餐ハ新宮様ノ□□袖鯛、鯛ノ一塩等なり、午餐寝に就く、本日ハ晴、北方は正晴にあらず、多少白雲ありたれと時を経るに随ひ東海に揃出せり、午後ハ風穏に雲薄晴なり、五里霧中に在るか如し、百足屋前岡の□□□□□□来ル、長き談なり、海鳥賊釣リノ如く白帆多く出つ、晚餐ハ鱒飯三杯、別ニ何も無□、満腹ニテ不足なし、□□□□<sup>〔二重書、下不説〕</sup>なし、何分判然せざる天気ニ而気分悪しし、二月十八日『日』好晴、本日も昨日の如し、朝湯に至り洗顔、灌水、復座後麵包、牛乳壺合、其後常例也、表便所に行く、小水不通ナリ、乃ち湿電を以す、個所並部位<sup>〔同〕</sup>皆し、菊主管ス、此にて了て裏便所に行く、小水通利沢山あり、○本日鵠沼の辺歟、<sup>〔不入〕</sup>入□斗の辺歟、砲声沢山聞ゆ、○北方□翠海上平穩、○朝十時国府津瀛車来る、午後二時後入浴潮湯、□□表便所に行き、□□□□□□、時三嶋寡夫人、其□牧野子の子を連来らんと□□□□□□、

二月十九日『月』晴、早朝狩野山、其後霧深く見へず、早起、灌腸通利少し、其より湯殿に至り洗顔、灌水、復座、麵包一切、其牛乳ノ勢か便通を覚ゆ、再び屎椅子に上る、僅かに通利あり、安扶此を、○大工を呼んで朝貌を作らしむ、椅子なれば便気を促かす故なり、先ノ体なれハ漏れ易き<sup>〔滲易ければ也〕</sup>、十時後菊湿電を装して、此に依て裏便所に行き通利あり、部位個所平常同し、○午餐鯛の酢菰り汁、鮭の□漬、○安房の狩野山午前に見へさりしか、午後ハ彷彿にて拝するに至れり、表便所ノ繕ひ殊ニ善く出来たるなり、午後午睡中、隣家の婦人□□□□、二十間の□隣家の家内来り、暫く暫く談して帰れり、其後邸内を一廻して帰り、其後座ス、昨日四時の瀛車ニ而□□□□□瀛車大磯へ来りたりといふ、其時表便所へ行く、小水通利あり、鰻鯉、満腹を不覚、

二月二十日『火』早起、白湯を飲ミ、表便所へ行けども小水不通ナリ、乃ち湯殿に行き洗顔、灌水、乃ち其復座、麵包一切、牛乳壺合、其後裏便所へ行き小水能く通ス、其後湿電菊此を掛く、部個所同し、其後表所に行く、□□□□此を扶く、小水能く通ス、此時より南風起ル、此時三番瀛車来ル、南風大に起る、本日□□□□君□□□□□□呼ひ□□□□返答善れと未た来らず、○□九時地震起尤甚長し、午前に真嶋助手来り、腫物を破りたり、入浴後床入り睡、起て便所至れとも小水不水に而、乃止、本坐に就く、南の海上白波起り、□□見へス、□□鮭ノ子□□□□□□等ナリ、<sup>ヤシヤビシヤク</sup>『耶舍□杓<sup>〔水〕</sup>、／今朝九時頃地震ス、尤長し、／ヤシヤビシヤク、』

二月二十一日『水』早起、塩湯を用ひ湯殿に於て小水ヲ為し、序に洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳壺合を喫し、其後菊湿電を装し此を掛く、了て裏便所へ行く、小水行利あり、其後菊湿電を装し此を掛く、安此を扶けて表便所へ至り小水通利あり、○昨夜より雪降る処、本日十時に至り雪歇む、午餐ハ薩摩芋の蒟、鮭の子等ナリ、○四時ノ瀛車ニテ菊ノ親父、色四方ノ白酒を持参、暇乞に来ル、四番□□帰□、

二月二十二日『木』早起、塩湯を喫し表便所へ行く、小水能く通利、午後就灌腸を行ふ、通利あり沢山なり、尤<sup>(射)</sup>尤□風薬を也、湯殿至り洗顔、灌水、却而就座、麵包一切、牛乳壺合、其裏表便所へ行く、小水能通、其後菊湿電を行ふ、利きにハあらず、真嶋の言に随ひ半数と定む、其後また小水に行かず、凡に殊に利かさるなり、其後裏便所へ行、小水能く通ス、跡ニテ放屁数発出てたり、○本日好晴、金太湯を遣ふ積なり、○狩野山麓ニ□□雖へとも、彷彿ハ拝すへからず、○本日午飯後一時□□<sup>(ママ)</sup>瀛車ニ而きよ子来る可しとお舛謂、□□□□□□□□に成りたり、其後髭削りて入浴す、午後一時入浴潮水、夜中七時□□脊に小水に行く、能く通る、

二月二十三日『金』晴、早起、塩湯を呑ミ表便所に行く、小水不通ナリ、其後湯殿に行く、湯殿にて小水通利□□あらん事を稀ふ、通利無し、洗顔、灌水、復座、麵包一切レ、牛乳壺合、了て裏便所へ行く、小水通利あり、此時東京八時ノ瀛車来り、此時邸ノ対岸既ニ板を装シ、既に水村ノ土搔き始る、本日ハ霧深して対風景一も鮮明ならず、即ち絶へて無し、○本日ハきよ子十時發瀛車<sup>(二重書不読)</sup>□□□□□□、其後菊新薬ヲ以て湿電ヲ行ふ、其後裏便所へ行く、小水能く通ス、其後水村氏土方と相談するを見る、蓋し水村氏<sup>(射)</sup>氏は土切を監督すなり、○時事新報来ル、おきよ遂に来らず、入浴後裏便所に行、小水不<sup>不通</sup>□ナリ、○晩飯ハ鰻鯉ニテ 味よし、おきよハ遂ニ来らず、△

二月廿四日『土』晴、早起、灌腸、通利あり、其後湯に至り洗顔、其後復座、麵包一切レ、牛乳壺合、其後裏便所へ至る、小水通利あり、其後菊湿を装し此を掛、部位等同じ能く利く、○十時十分おきよ来ル、○午餐ハきよ子土産ノ鮎ノ煮物、□□□□となり、了て裏便所へ小水に行く、能通ス、其後きよ子、招仙閣へ□□、○かみさん□□□□行く、また松林館加藤照磨君来ル□□□□、○晩餐ハおきよの牛肉、□□□□□□□□シマ□□等なり、裏便所□□□□□□□□、○紳六郎より書状来り、本年二月十一日には印度□鼻を殊ニ艦上□□□□したり、鹿児島英次郎より□□□□の種を贈り越ス、△

二月廿五日『日』半晴、早起、塩湯を呑ミ、直ニ其より湯殿に行き洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳壺合、其後裏便所ニ行く、小水通利あり、其後菊電気装して此を掛く、部位等同じ、おかね、本日高麗園ニ行かんと欲す、尤午時過よりなり、十時国府津瀛車来ル、水村氏の日雇、山を堀掛りたれば氣遣ひ無し、其後電気の効ニテ再び裏便所に行く、十時東京より瀛車来れと、水村氏の堀作氣遣ひはナシ、○時事新報午前に来る、○本日午後より高麗園に行く、宮様ニ逢ふ、窮すること甚し、□□して為吉に脊負れて巡遊す、○此日夕方高木君来ル訪、招仙閣ノ医会に趨く由なり、三寫ヨリ到来ノ九年母を分配ス、お富さんハ猶病氣不快なる由、

二月廿六日『月』早起、塩湯、其後灌腸、湯殿に行き洗顔、灌水、其後復、麵包一切、牛乳一合、其後裏便所に行く、小水通利あり、きよ子扶此を、其後湿電を掛く、其

「西周日記」

後源氏豆を食ひ、小水通リス、後きよ子扶此を、廿四日出之書状到来、○大磯小学生徒演習□□ス、○本日子（一行程不説）きよ子□□、入浴潮水、○鯛の鮓、鮓ノ□□等なり、鯛 □□潮煮もあり、

二月廿七日『火』早起、塩湯を喫し、其後湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、其後麵包一切レ、牛乳壺合、其後□源氏豆を食ひ、忽便氣を催ふして乃ち裏便所に行く、通利あり、きよ子扶、○湿電菊掛此を、○本日快晴、北方晴翠なれと中天雲あり、東方海上南方より例ノ峯巖を越ス□に所ノ海上五六間ノ上一帯ノ白雲あり、○本日書状を差越ス者、山本長平、水交社か報知、大野富雄、色々ノ事、其園庭出、て遙遙して帰り就座、此時十一時前なり、○本日四時半頃入浴潮湯、其後揚浴、  
『一時十分前地震す、頗ル大なり、』

二月廿八日『水』好晴、早起、塩湯を喫し、其後灌腸なり、湯殿に至り洗顔、灌水、其後復座、麵（包）一切レ、牛乳壺合、其後菊湿電を掛く、其後裏便所へ行き小水通利あり、菊湿電の序に此を扶く、小水、麵、電氣を合せ能く通利あり、○本日子よ子東帰、好天気なり、周等ハ来ル八日と定む、○きよ子、遂に九時ノ瀛車にて東京に帰る、○本日江ノ島烏帽は平常よりも能く見ゆ、好天気可至、○午餐鮭の卵、鰻等なり、 △

三月一日『木』半晴、早起、灌腸、其後湯殿に行き洗顔、灌水、其後就座、麵一切レ、牛乳壺合、其後裏便所へ行く、舛子扶く此を、其後菊湿電装し此を掛く、○其時（吉）為潮水汲ミに行く、○昨日より土持来り砂を捲く、十時後再裏便所へ小水に行く、菊此を扶く、電氣の為なり、○午餐ハ鰻鯉ノ残飯、鰻ノ焼物ナリ、餐□ノ□□、入床て憩ふ、○晩飯残蒲萄酒、鰻鯉飯ナリ、其外□□□□、

三月二日『金』半晴、早起、湯に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、其後裏便所に行く、小水通利あり、安扶此、其後菊装湿電掛此、未タ裏便所に行かず、十時後即ち安を呼んで行く、小水能く通利あり、其前きよ子より挨拶書状来る、昨日の山本の書状は全く相違二而、本月八日当りに呉港に着すへしとあり、其後時事新報来ル、来ル九日両陞満二十五才の御肖像を写真に写し□□□する由ナリ、○午後義太夫あり、親子なり、一ハ娘にて、余ハ始終床中にあり、 △

三月三日『土』早起、灌腸、通利相応なり、其後湯殿に行き洗顔、灌水、返（了）て就座、安扶此、其後其後麵包一切、牛乳壺合、了（了）て裏便所へ行く、小水通利あり、安扶此、其後菊湿電を装し此を掛く、部位個所同し、為吉海水を汲ミに行く、○東京三番瀛車にて新婢来る由、○高木お富さんは本日別荘ニ来る由、時刻ハ未タ分明ならず、○下女ハ先きへ来たり、高木ノ下を回走して来れり、午後入浴海水、其後三嶋夫人来り談論長し、高木お富さん未タ全く快方ならず、車にて別荘に来る、

『有村国彦 有村国彦』



三月四日『日』早起、安誘導に而湯殿に至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切レ、牛乳壺合、了て裏便所に行く、小水通利あり、其後菊湿電を装して此を掛く、此時より下痢を起す、始メ下利ノ氣を覚ふに及、其支度にて大便所に至り便通無し、亦昨夜ノ利水ノ為に水瀉盛ンなり、但し多少ノ瀉ハ水耳なり、其後高木君来て□□之後ニお寛さん来り、□□続く時に皆既ニ立去ル、○午餐牡丹餅四ツ、鯛ノ煮物、飯一杯等なり、午餐、裏便所に行く、菊之扶、小水不通なり、午餐後庭園を巡回したり、□□少く□□□□、再び裏便所へ行たりに、きよ子 晚餐ハしこノ煮染等、鯛もあり、腸□□□起ス明かなり、  
『菊、安、公、』

『本日十時後少□ノ地震あり、』

三月五日『月』早起、塩湯ヲ喫し通利あり、裏便所に行く、安扶之此、其前灌腸、通少し、其之湯に行く、洗顔、灌水、菊扶此、返て着座、麵包一切□、此□□、牡丹餅四餅<sup>切</sup>、其後裏便所へ行く、小水通利あり、其後菊湿電ヲ装し此を掛く、通常<sup>〔カ〕</sup>なり、為吉海水を汲ミに行く、○小学校ノ調俸始る、○時事新報来り、本日ハ月曜来らざる可きに来たるハ撰挙騒あるを以てなり、○其後裏便所へ行く、湿電ノ効なり、○二時過入浴潮水、お舛ハ其後高木へお富さん見舞行く、尤余朝彼方婢女を遣はして快方ノ由を得たり、○本日ハ習交りの北風ニテ寒きこと甚し、東海ノ様子少く□□□を□□ノ如し、□□□却而美日なり□□□、  
『有村、』

三月六日『火』早起、湯塩<sup>●●</sup>を喫し、直に裏便所に至り通利あり、其後安に誘れ湯殿に至り洗顔、灌水、其後座に復、麵包一切、牛乳壺合、其後安をして裏便所ニ至らしむ、小水能通す、其後菊湿電を装し之を掛く、部位個所ハ同、○庭上ノ紅梅、今を盛りと開、座上より能く見ゆ、○有村氏ノ工事効行きたりと見へ、又々□別坑を開きたり、其次遂に安を呼て、其後舛子、有村氏へ挨拶に出る、近処へ見へたる方、序なればなり、土方ハ佐藤倉吉ナリ、○午餐後百足屋来、狗ノ囀ふを談し、植木屋に□□□□□□許諾して□□□、如此にして本日の困難を了したり、跡ニテ小水不通ナルなり、漸く便所に依て通利あり、○午餐ハ塩漬□□□□□□、飯ハ□□□□□□□□たり、○呉を四時半ニ紳六郎より電報到着、□□□□□□□□□□ニテ□心配す、

『□□□□居士、町田久成は比叡山に在り、』

三月七日『奉』<sup>水</sup>雨る、早起、裏便所に行く、小水通利あり、尤も喫塩湯ノ後ナリ、夫より安に扶けられて湯殿に至り、返て就座、麵包一切、牛乳壺合、其後安扶けて裏便所へ行き通利有、其後菊湿電を掛く、此時為吉海<sup>〔水〕</sup>を汲ミに行く、○本日ハ雨天故対岸ノ有村氏ノ工業ハ休ミなり、○此時分国府津第三瀛車来ル、□□子は下車ス、本日午前周髭を削る、○本日ハ北風雨且習を帯ひたり、其後再び裏便所に行く、舛

「西周日記」

子此を扶く、湿電□なり、

三月八日『木』本日雪□、<sup>(二重書)</sup>第三瀛車ニテ東京へ出立、<sup>発</sup>瀛車中町田久成ノ談あり、朝灌腸、夫より湯殿に至り洗顔、灌水、就座、麵包一切、牛乳壺合、連行ノ女子、菊、好、安、政吉たり、

三月九日『金』昨日雪残り、道路泥濘なり、早起行灌腸を行ひ、其後湯殿に至り洗顔、灌水、此時誤て<sup>左</sup>右耳ニ注入ス、其後茶ノ間ニテ麵包一切、牛乳壺合、了て楼に登る、小水に行く、通利あり、○本日銀婚御式なり、招状あり、午後六時と九時ハ観楽なり、昇楼後二渡裏便所へ行く、二度なから通利あり、腹中ニ□る歎、其後就寝、○其後また寢室ノ便所へ行き尿多くにして小便通利あり、紳六郎より呉港差越したる書状は未だ呉を出発するノ能はざる由、本日豊好来ル、午餐を供す積なり、并二岡からも来訪之礼の話あり、白酒を下さるといふ、□□□□喧し砲声屢〜聞ゆ、三時後入浴清水、明日は歌舞伎見物と極む、お沙も行く由なり、

三月十日『土』第十時より歌舞座見と極む、新富坐ニ行く、お沙も行くと思ふ、およ<sup>き</sup>きより書状差越□□□、<sup>(二重書下不説)</sup>雛段ノ由なり、脊負手ハ価五拾銭と金次郎、此を定む、本日も雨降る、お沙のミならず梅も安も行く、

三月十一日『日』本日早起、小水通利無し、依灌腸を行ふに通利僅少ナリ、依湯殿に行洗顔、灌水、返而茶ノ間に至り麵包一切、牛乳壺合、其後□水□□も□□□□に来る由なり、昇楼後裏便所へ行き通利あり、<sup>(半行程不説)</sup> 瀬脇来診、格別之事無し、<sup>(細細カ)</sup> □□なりといふ、山田記慣へ緬免壺反を贈る事ニ決す、勃平之事及お沙ノ為に勞する計なりたればなり、入浴清水、○其後勃平□□に行き帰り去る、

三月十二日『月』久振の晴、本日朝起、塩湯を喫し、裏便に行く、夫より負れて湯殿に至り洗顔、灌水、□□して□を行く、猶小水不通なり、夫より常例の麵を喫し、表便に至り小水、小水通利あり、○本日九時より海軍参謀部へ聞取に行く、山本也、小水通水ス、其後昇楼、山本を海軍参謀本部遣はず、昇楼後水を呑ミ裏便所へ行く、小水通利あり、舂子扶此ヲ、しこありといふ、○山本帰る、未だ判然せぬ由なれば本日午後帰路と決ス、二時二十分発車なり、四時五十分大磯着、其後間も無く入浴塩水、本日三月三日出書状大野直和より着スなり、△

三月十四日『火』快晴、早起、塩湯を呑ミ、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、着座、牛乳、飯食三杯、其後表便所に<sup>(行き小水カ)</sup> □□□□通利あり、<sup>(電カ)</sup> 湿□、舂子此装し此を掛く、部位大概同し、此を略す、其後再び裏便所へ行く、通利あり、蓋し飯食と電気との故なり、十一時過再び裏便所へ行く、通利あり、其後百足屋見ゆ、蓋植木屋ノ催促故直に行く、○午餐は<sup>スシ</sup>高木氏の酢、鮭魚ノ卵、鮭ノ卵等ナリ、鰻鯉なり、此不足なり、其後裏便所へ小水に行く、通利あり、午後一睡後吃水、□裏便所に行く、小水能く通ス、○山本お衣さん□を□□す、晚餐ハ何か之子か、鮭の卵もあり、

△

三月十四日『水』快晴、早起、灌腸、通利少し、其後塩湯を喫し通利あり、通利ハ午後を約し、湯殿至り洗顔、灌水、其後着座、麵包一切、牛乳壺合、○本日植木屋来り、二人来る、大光と外一人なり、子宝等ナリ、犬の牆を為ス、○お富さん、お蜜さん、二人ニ而来訪、○為吉、潮水を酌ミに行、○便所ニテ水を吞ミ、其後飯を食して灌腸する由なり、□□ニ百足屋ハ歸去り、

三月十四日『木』雨、本日安に誘れられて湯殿に至り洗顔、灌水、其後着座、麵包一切、牛乳壺合、其後再安に誘られて裏便所に至り、早朝上の如く潮水を便し、本日ハ海水浴無し、其床に付一睡、此時瀬脇おみつさん、高木へ来る由ニ而、見世物あり、桜餅なり、○午餐ハ昨晚の鰻飯、其他鯿なり、午餐ハ昨夜の鰻飯外、鯿の煮肴もあり、満腹なり、おみつさんの手土産ハ若松屋に分配す、○三時過安倍川及ヒお富さんの林檎を食ふ、此時国府津気車来れり、既に夕飯となる、其後午垂より起き、裏便所ニ至り小水通利せり、

三月十六日『金』昨夜暴風雨、濤声盛なり、本日快晴、海濤猶盛ナリ、本日早起、灌腸、通利少し、猶午後ノ再灌腸を約して止メタリ、○朝一時休に就きたれと再起き机ニ向ふ、本日植木屋三人来れり、○有村氏の工事も共に始めり、午後灌腸、其後入浴潮水、○此時足加減宜しからず、為吉に抱負し、漸く□□□□□、舂子ハ高木へ無音見舞に行く、其報ありて此を□□□□□異したり、○有村ノ工夫晩方まで勤し、○此□□□□ 繩攻為し手前内ノ職人夕方まで働く、おみつさん、五時三十分瀛車にて東京、

三月十七日『土』半晴、早起、安に誘れ湯殿ニ至り洗顔、灌水、返座、麵包一切、乳乳壺合、幸此扶けて小用を、其後有村氏ノ工事漸く漸にして前多ク木を切り落スを見、我工人も早朝より来れ□、午餐紅葉□□ニ而酒田餅 □□□五六ツ喰ひたり□、午餐後有村氏ノ工角を崩スを見たり、○本日之天候北ハ正晴、有村氏ノ工夫角ヲ穿ツを見たり、海辺ハ濁水なり、其後は鰻飯ニテ明日は紅□□□□□、四時半ノ瀛車ニテ、瀬姉さん、豊住等来る、団子ノ土産あり、○風向ハ南風□□□□□、

三月十九日『土』曇、雲難退、早起、灌腸、通利あり、其後湯殿に至り洗顔、灌水、復座、麵包一切、牛乳壺合、了て裏便所へ行く、幸扶之、○本日植木屋養子大光来ル、庭ノ霜除ヲ解ク、並に牡丹の□□□□□□□在り、有村氏ノ工夫も早朝来ル、猶最後ノ処、乃チ上リ口ヲ開鑿ス、其後裏所に行き、為吉□□□□□□□□□□□□□□□□、百足屋東京ニ行く、用ハ無きやと問ひ来る、手塚、柳も本日三時三十分の瀛車ニ而歸る、□□□□□、○有村氏ノ道路出来ノ上□、東京へ最近誘れ□来ニ而□□する由□□事に□□、其後入浴海水、其後舂子揚浴、舂子、瀬脇寡夫人ノ送別ニ行く、

◎

三月十九日『月』早起、初メ塩湯、小水能く利ス、安扶之、湯殿に至り洗顔、灌水、

「西周日記」

其後復座、麵包二切、牛乳壺合、其後裏便所へ行く、小水通利あり、此時安の□□  
□□来る、○有村氏の工事、本日も亦始る、高木ノ内ニテお松さん亦琴を始メタリ、  
○瀬脇氏より通□に日ハく、吉野艦明日品川着ノ由なり、急に明日東京行と決ス、  
おきよよりの□□きハ少し□□□□□□、乃ち九時五十八分過ニテ大磯を発し、  
十二時十五分東京に着也、○果して本午後紳六郎帰れり、色々違報もあれと無難に  
帰れる上ハ別騙無し、欣然に堪へず、

三月二十一日『未』昨日紳六郎帰後一日、早起、灌腸、夫より元に負れて湯殿に至り  
洗顔、灌水、帰て茶の間にニテ喫麵包一切、牛乳壺合、其後表便所に至ル、小水通  
利あり、此間紳六郎取帰りの品を看る、○本日は伊藤圭介先生及田中芳男<sup>君を訪は</sup>  
と思ふ、紳六郎休にて□□□して□□□□□□の挨拶の□□□□田中芳男君相  
談の土産なるへしと、昇楼後また裏便所へ行く、小水通利あり、岡令夫人土産あり、  
其後上領、其前相沢来訪等、亦林、別府ノ□□□来訪、是同日なり、隣家ノかみさ  
さん等来る、おみへさん来訪、

三月二十三日『木』是より正篇、本日紳六郎帰省後第<sup>着後</sup>第三日なり、本日朝紳六郎出仕、  
午後二時十分過帰邸、□ニ入浴となる積りなり、菊に午餐後なり、午餐ハ鯛□□□  
□□□なり、○其後入浴清水、

三月廿三日『金』晴、本日紳六郎ハ品川<sup>艦</sup>野野監に出仕、朝六時より、周老耆、早起、  
灌腸、其後、元に脊中ニテ、安扶此ヲ、湯殿至り洗顔、灌水、返てて茶ノ間ニテ麵  
包一切、牛乳壺合、裏便所ニテ小水通利あり、其後□□、其後□□□□□□裏便  
所にて小水通利あり、午餐ハ真鯛ノ煮附、腥臭厭ふへし、白飯数椀、了て表便所行  
き通利あり、了昇楼、此時舛子、佐々木へ行く、○午前十一時半頃、○昨日鈴木良  
助君帰着祝に来る、

三月廿四日『土』晴、元に脊<sup>一合</sup>負れて湯に至り洗顔、灌水、其前灌腸、通利あり、茶ノ  
間にて麵包一切、牛乳壺合、其後表便所に通利あり、其後昇楼、其後梅に扶けられ  
て裏便所に行く、小水不出、本日紳六郎昨夜来未帰、本日明治<sup>座</sup>に行く、周、舛、き  
よ、元、お沙等なり、

三月廿五日『日』早起、元に負かれて湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶ノ間に帰り麵包  
一切、牛乳壺合、了て表<sup>便</sup>所に至り小水通利あり、其後昇楼、帰磯を決ス、午前発  
ノ汽車ナリ、○今朝紳六郎帰艦、

三月廿六日『月』朝起、湯殿ニ至り<sup>洗</sup>顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳壺合、裏便  
所へ至小水不通、○□□□□、本間三郎君より、一時四十五分国府津へ帰り、○□  
沢太郎左衛門も来、大磯□□為吉途中ニテ逢□□、○本日高木より月見団子来ル、  
○晩ハ<sup>鮭</sup>曼鯉ノ由、□□もありしなり、月見団子に依り明日灌腸を思ひ□したり、○  
本日未だ病気の左右なり、

三月廿七日『火』半晴、早起、灌腸、其後安に誘はれて湯殿へ至り洗顔、灌水、其後



「西周日記」

て、本日高木お富さん帰荘、途中ニ而逢ふならん、三嶋の子供も昨日帰荘せり、倉吉来ル、二番発ス、○また便所に行く、通利なし、此時高木にお松さん植□を□く、○十時後再び裏便所へ行く、小水通利ス、○例の棚踊る、

四月二日『月』早起、灌腸、後元に負ふして湯殿へ至り洗顔、灌水、後茶の間ニ至り、麵一切、牛乳壺合、了て楼に上る、朝安塩湯を供ス、小水無通利、夫より直ニ灌腸に掛る、其後昇楼之後安<sup>□□</sup>を呼んで裏便所に至り小水通利あり、其後向机、○本日天気快晴、少し寒し、○本日紳六郎、皇太子殿下の芳野艦行啓ニ付、早朝品川湾へ出頭、○昇楼後二度裏便所へ行く、小水通利あり、其後芝公園内に遊ぶ、此時共にする者、舛子、きよ子、沙子、みつ子等なり、帰来漸宅ノ変あり、□□を□し、□□□□□□□□□□報知あり、明日行く事に決ス、一時間過にして裏に行く、再び通利もあり、此時既明日新富町芝居へ行く事に決ス、○本日ノ総計、第一灌腸、第二紳六郎皇太子行啓、第三芝公園、第四尾侍事、第五新富座、第六小水快通なり、都合六篇ナリ、第七神武天皇祭ナリ、

四月三日『火』快晴、早起、灌腸、夫より元に負れて湯殿に到り洗顔、灌水、夫より茶間ニ着座、きよ子扶あり、麵包一切、牛乳壺合、了て昇楼、其後裏<sup>裏便所ニ行く、安扶此、</sup>に到り、安扶此、<sup>小水快通せり、</sup>□□、○名刺代式拾五銭、時雄ニ払ふ、伊賀能雄、○其後裏便所へ行く、初は安、後梅来て、扶此ヲ、○○午前十一時より新富座見に行く、夜七時帰宅、歌舞伎座ニテ行□□□□□□□□、□□□□□□□□□□有村老人及□□□、□□□、□□□□□を見る、<sup>〔途中行間ニアリ〕</sup>本日神武天皇祭、

四月四日『水』半、午後好晴、早起、灌腸、通利少し、其後元に負ハ湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶ノ間に着座、麵包一枚、牛乳壺合、其後昇楼、其後裏便所に至る、通利十分、屁多く出つ、其後再び裏便所へ行く、通利あらず、此前岡ノミツ子挨拶して帰る、昨日歌舞座へ安内に行く、おみつ<sup>〔佐〕</sup>さ、お沙<sup>〔人〕</sup>、舛子、きよ子、周、<sup>五人</sup>四夫ナリ、其後再び裏表便所に行く、通利あり、此時ふきの煮□ノ□あり、舛子、林、岡、林等へ行く、留守なり、別府、其他伊東、皆おきよの親族なり、蓋し多数を以て午時帰さるの計ならん、此レ全く懸念ナリ、午時より□に帰宅せり、則ち佐々木より<sup>此懸念なり、</sup>相沢<sup>〔ママ〕</sup>に至るの謂ならん歟、○晚餐ハ支那料理、鯉□の□□ニテ五時前ニ持参せり、塩ノ水を吞めと通理無し、百方通理を求たれと詮無し、是にて灌腸を行はんと欲すれとも忍んで下ニ降、晚餐に就く、

四月五日『木』朝灌腸、夫より下に至り、元に負はれ湯殿至り、安に扶けられて洗顔、灌水、返て座、麵包一切、牛乳壺合、其後昇楼、再び裏便所至る、其後下杖、食事は牛飯、再び昇楼、其前行水湯ありと聞き、返て水を吞、通無し、復□□□湯殿に、再裏便所に至る、小水通利あり、乃ち湯殿に至り入浴ス、朝お沙来ル、里開も愈〜七日と定まる、六日ノ日蝕を見ること能はざるナリ、

四月六日『金』雨、早朝より雨、日蝕なれと見るを得可らず、数日の曇故晴れ相も無し、其上に明七日ハお沙の里帰りニ而親類打寄之趣向なり、雨中如何ある可し、処ハ牛込、○東京雲行北風なり、○紳六郎ハ天城艦ノ分隊長に転したる由ナリ、○牛込ノ料理店ハ手騎<sup>〔駒カ〕</sup>七人、牛熊なんいふ由ナリ、ブツの夕になりけり、本日秋元氏おかさんと共に来る、周内祝の挨拶ヲ忘れてたり、

四月七日『土』本日も雨、早朝紳六郎より昨日の書状来ル、天城艦ハ横須賀に在れと品川沖へ当て、<sup>●●</sup>出差たり、書状官吏ノ心聴たる者横須賀へ送れたる由なりし、夫故に早く知りたるナリ、○婦人衛ハ本日ハ止めになりたりしと電報あり、<sup>〔牛込カ〕</sup>入牛ノ牛<sup>〔街カ〕</sup>牛熊行左在りありとし、<sup>〔牛カ〕</sup>八熊ニテ、夜帰ル、帰宅十時なりといふ、おきよいふ甚疲羸を歟、帰宅後紳六郎拮据す、然れとも暫くして少しく鎮静ス、夜の帰宅を待つといふ、夜十時帰宅、

四月八日『日』本日もしほ〜雨、晴れず、早起、灌腸後湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶ノ間に帰り着座、麵包一切、牛乳一合、了て昇楼、○本日紳六郎出仕せず、朝瀬脇来り、きよ子ノ病□□□ニて□□□□□□□ナリといふ、午餐ハ蛤の吸物、しい茸のきみつ羹等ニテ、其後表便所に至り通利小水、其後昇楼、就睡時奥様〜ノ声激互在、乃ちきよ子手水ニ行き、<sup>〔縁〕</sup>帰路椽側ニて卒倒したるナリ、余其声に驚き、楼を下りて行き見るに、全く卒倒ニて気稍々復したりしに、乃ち再び階子を匍匐して上り、机ニに倚りたり、其後二時五分前瀬脇来ル、夫より一度見付□らる□裏便所行く、小水通利あり、瀬脇いふ、□□□□□動揺したるに其□□起□□故ニ成丈動揺せざるを可とする、此度之卒倒ハ小水に行きたればなりと、遂に看病人を雇ひ□□の用事□□□□或ハ岡婦君を雇ふ可しといへと、未だ極らず、二時五分より天気□□になり南風も起りたり、其後裏便所へ行く、小水通利あり、夕刻また雨降□□たり、○晚餐ハ紳六郎ウ鈍、周ハ飯一等、

四月九日『月』早起、湯殿に至り洗顔、潮水、行くハ元の脊中ニ而、其他ニ安扶此、其後茶ノ間ニテ麵包一切、牛乳壺合、了て昇ス、裏便所に行、其時紳六郎、母乳<sup>親</sup>とおきよノ事就テ相談あり、其後午前灌腸、午餐後表便所へ行く、通利沢山ナリ、○本日紳六郎、朝ノ間外務省ニ出頭、何ノ用ナリ歟、本日きよ子病気の為、岡ノ母親、午餐後帰る、并ニ伊東お富さん、きよ子ノ見舞に来る、此ハ残り居る、午飯を喫して去る、○きよ子の騒ハ昨日ノ朝なり、鄰家ノ家内も見舞に来る、余も匍匐して二階を下りたれと、夫より先へ動くこと能はず、本日ハきよ子も少く快き方なる由、<sup>〔安カ〕</sup>大大心す、○本日も昨日之通北風不晴ノ天気なり、昨夜は看婦来る、瀬脇の世話なり、○四時前入浴淡水、紳六郎先つ入ル、○其後伊東来る、此時裏便所に行く、きよ子の病を訪ふて、再乞水裏便所に至る、小水通利あり、

四月十日『火』本日も朝の内雨降、九時前より少く晴模様催ふす、当時西風に変わり猶晴模様も無し、朝起、灌腸、通利太しと安いふ、其後茶ノ間にて麵包一切、牛乳壺

「西周日記」

合、其後昇楼、通利あり、其後岡浦太郎其間之挨拶、并にきよ子ノ病気を問ひに来る、其後紳六郎恩給証書并ニ周ノ実印を取に二階上へ来ル、其後観桜御御断ノ請取ヲ山本持参、其後舛子先日の入費をお沙に、沙依て、依而佐野氏へ請求ス、○午後好参、其夜混雑を□□に、此時お沙来る、何分大騒動なり、○紳六郎は用事ありとて横須賀に帰る、随分混雑なり、此時勃平来る、突然勃然怒り□をなすとて席を立去りたり、今午中に聞きたる事□□□□□□□□□□、直ニお沙を帰して、若し不意ノ事あらハ電報せよ、言ひ置たれハ遂に電報無し、是□□□□ならん、観御会御断ヲ差出し式部職の請取りを取り来れり、□□□□□の最後ノ話ハ豊住周平年ノ□□談ナリ、此度夜日暮て舛子佐野へ行く、豊住好自宅へ帰る、周平ノ談了して、

四月十一日『水』早起、灌腸、了て元ノ背中ニテ湯殿に至り、夫より安の扶を得て洗顔、灌水、了て茶ノ間に着座、麵一切、牛乳壺合、了て昇楼、小水に通利あり、○本日□□□□来る、□□を□□て□□□して去る、おきよの病気を□□して去ル、其後岡富子来、其前ミつ子昨夜泊り泊りて、今朝築地学校へ鈴木ノ娘と一同に行きたり、○本日より薩摩芋ノ粥を始む、其後卵茹を二ツ三ツを食ひて、便急なり、乃ち裏便所ニ行、小水通利ナリ、○本日晴、風ハ北風なれと漸く晴ヲ赴し三日の後ノ好晴期□よし、○本日湯あるを以て、午後亦灌腸ス、通利殊に少し、其入浴清水、三時入浴より上ル、○紳六郎手昏来、きよ子の全快まで□□□□事ナリ、相談したり、

四月十二日『木』晴、昨日ニ続きて快晴なり、早塩湯、通利無し、夫故に二二灌腸を始む、通利あり、昨夜鰻飯□□□□□□覚ゆ、夫より元の脊中ニテ湯殿へ至り、安の扶けにて洗顔、灌水、夫より茶ノ間ニ来り麵包一切、牛乳一合、夫より昇楼、昨夜紳六郎より書状来ル、きよ子今ハ少く快方まで滞在を乞との事ナリ、故に之を諾す、○本日恩給渡り日ナリ、朝八時山本長平請取に行く、総計式百円ニテ、舛子ノ計ニテ、内百五十円ヲ二十銀行に預け、此事預金ノ返ナリ、余ハ総受取る由申附ケ、○本日金太ノ話に移る、山本長平、お松さんとのの話に移る、○本日また曇り加減なり、併し雨ハ降らず、今日迄勃平もお沙も為何事なきハ如何なる訳にや、不審の限りなり、○本日朝伊東のお富さん来ル、姉の病気を問ふ為、其後瀬脇ノ後宮、此間ノ挨拶旁来ル、色々長談あり、○其後鈴木の家内、おきよの見舞に来る、瀬脇ノ此度之□□□□□午□□ス、御富さん来り、金太の□□□□□、井戸ハ其後掘れず、鳥渡あり□□□、○本日の天気ハ曇天ニテ殆雨らんす、今豊よし婦〔二重書下不説〕る、佐野手昏ニテ、舛子態々行かんと□、□□より先に来れり、〔以下一行程不説〕□□といふ、○本日夕方大築保太郎君来、芝離宮観桜会ノ帰ナリ、同時に佐々木慎思郎来ル、おきよノ病気を聴きてなり、長平ニテモ□□□□、△不出来

四月十三日『金』朝より雨、天気未定ナリ、早起、灌腸、通利なし、其後元に負れて



湯殿へ行く、安扶けて洗顔、灌水、着座、茶ノ間、麵包一切、乳牛<sup>●●</sup>壺合、了て昇楼、裏便所に行く、小水通利ナリ、其前一寸きよ子ノ室へ見舞に行く、本日明ニ快方ノ由ニテ□□□□□□□□ノ由ナリ、午前別府令夫人来訪、きよ子を其後、○終日□□□□佳からず、午後亦別府君、きよ子の処を来訪す、朝鈴木令夫人来たる、おきよの処へ、此前岡のミつ子来訪したり、きよ子本日下午ノ気味なり、麵類を餐しならん、

四月十四日『土』晴、南風、早起、塩湯を呑ミ通利あり、其後灌腸、其元に脊負れ而湯殿に至り洗顔、灌水、了て茶間に着座、麵包一切、牛乳<sup>[乳]</sup>壺合、昇に行便小水通利、○其後再表便所へ行く、午前十一時前裏便所に行く、○永永見ノ手紙を看、夫婦よりおみちに□□を□□□祝を遣はす、○□よりも□□手昏来れり、□□□□□示す、本日午後佐野お茂さん来る、勃平の事なり、今以テ上領へも行かす、悪友と□て酒を飲ミ、酔狂など招くなりて、□□君来る、矢張同事件なるへし、○午前紳六郎手紙あり、おきよの事何分よろしく頼候との事、何れ□□□□□□□□□□なり、松本和君来、きよ子病氣、鎬木ノ寡人、其後ハ佐野絜君、お茂さんと同祝なり、○夕方より舛子、豊住氏を訪ふ、岡氏ハ浅草公園ノ花を児女に觀せしめ、帰に□すと致と、○本日風烈しけれと□□在宅なるを期して態〜訪問せるを好都合なりや否を明日問ふて後に記すへし、

二時半頃地震  
『昨夜三時地震ありし□□、』

四月十五日『日』朝灌腸、既塩湯呑ミ通利無し、乃ち灌腸を始む、次に元ノ脊中ニテ湯殿に至り、安扶けて洗顔、灌水、其茶ノ間に返り、麵一切、牛合<sup>[乳]</sup>壺合、其昇楼、通利あり、其後二度小水通利あり、○永見氏おみちへ芳代拾円を祝ふ、此度婚姻するニ付、○本日朝宮内君<sup>給五郎来ル</sup>来ル、先日之談ときよ子の見舞とを兼而なり、其後牡丹餅を食ふ、おきよの出でたるならん、

『本日風烈し、向嶋□宮内□□□□ナリ』、『宮内給五郎』

四月十六日『月』西風、晴、朝塩湯を呑ミ<sup>表</sup>下便所へ行く、小水不出、□湯殿に至り其より再上楼、灌腸を行ひ、再び湯殿に行き洗顔、灌水、再び昇楼、倚楼時相沢朧君来ル、遂に昨夜向島ノ亀井□下屋敷等清水類焼見舞ノ手昏を托ス、○今日ニテ瀬脇君差葉を為ス、二度ナリ、○餐ハ鰻鯉飯ナリ、晩飯も同し、本日ハ舛子ノ分を併て二度分あり、○石見国中学校ニ付扶筋申立人二人名刺あり、高く〜五円ナリ、

四月十七日『火』晴、早起、<sup>[三字上書アリ]</sup>元脊中ニ而、其後湯殿ニ至り、安ノ扶けニテ洗顔、灌水、茶ノ間ニテ麵包一切、牛乳一合、了昇楼、裏便所に行く、小水通利あり、其後再び行く、小水通利あり、本日高橋、向嶋の火事を聴、人を遣はす、清水は無難なり、増野力之助、亀井家写真道具悉く焼失之由、亦昨夜も火事ありし、半鐘鳴れり、近在歟所にて分らず、本日ハ晴なれと風寒し、○午餐ハ伊勢の酒飯□□□□□非らず、一椀余り、其後岡之お富さんも来る、其後勃平の断書来る、其岡の寡婦人来る、

「西周日記」

四月十八日『水』晴、本日朝起、灌腸、夫より元脊負れて湯殿に至り洗顔、灌水、返  
て茶之間にて、此時舛子豊住へ行く、十時頃舛子帰宅ス、朝より□らなる、本日紳  
六郎ハ猶横須賀滞在、天覧ハ昨日了したれと、猶皇后<sup>(衍)</sup>ノ叡覧有之由ニテ本日此ニ  
及ふなり、此時小水通利至り、午餐ハ鰻鯉飯ニテ、晚餐其ノ残り、午餐艾餅を食ひ、  
通利有之故全ク□□□□聲にするハ□□所ナリ、勃平ノ処分ハ禁酒するへくお沙と  
離縁に到り難し云ふに在りとす、今日夜瀬脇行葉一回、都合三度ナリ、

四月十九日『木』晴、また還らす、此間相沢湛庵君帰りに大磯別邸へ立寄り、牡丹之  
栄たる由を見たり、皇后宮ノ叡覧ハ本日の由なり、

四月廿日『金』本日九時二十分の瀛車にて東京を発す、おきよは本日ハ何事も無き由  
也、午後入浴後水園花ノ牡丹開くを看るのミ、葱之花□□に同し、昨日きよ子病氣  
次第に快方□向ノ□ノ□□ナリ、暫く内ニ帰る故に□□□□□□□へきなり、本日  
南風曇天、雨は雨らす、

四月廿一日『土』晴、曇、早起、灌腸、其安に扶られて湯殿至り洗顔、灌水、其着座、  
麵一切、牛乳壺合、了裏便へ行き小水通利あり、○本日岡光子、ニラノ種ヲ呉れた  
り、拙か好物なれハ大磯に贈る、本日大磯へ贈る由ナリ、○ニラ本日八時届きたり、  
其後湿電一回、部位並ニ佳所ハ前に同し、了て裏所に行、一小水同、其後為吉脊負  
れて庭内を一巡し、次に裏便所に行、時に小水水通せり、○本日夕方起見る、江ノ  
寫、烏帽子岩能く見ゆ、明日は<sup>(廿二日冒頭二重書、不説)</sup>□□□□□□、

四月廿二日『日』○本日相沢君九時五十八分の瀛車にて帰る、○本日早朝紳六郎出仕、

四月廿三日『月』晴、本日発大磯別邸、急に東京供スル者夫婦ノ外に母公二人ナリ、  
きよ子の病氣ニ倣てナリ、紳六郎ハ浜田玄達君を待つ、夫より岡ノ百ヶ日際<sup>(祭カ)</sup>至ら  
んといふ、○舛子、本<sup>(目)</sup>浜田玄達を訪ひ家内逢ふて、きよ子の□□ヲ托す、此日瀬脇  
も不来、本日も相沢<sup>(二重書不説)</sup>□□□□□□、

四月廿四日『火』晴西風、紳六郎昨日帰る、今朝品川<sup>定</sup>に帰る、鰻鯉ハ伊勢<sup>定</sup>ナリ、午  
□□ノ□□□、今朝早起、元に脊負はれて湯殿に至り、安扶けて洗顔、灌水、茶ノ  
間にて麵包一切、牛乳壺合、早朝灌腸、其後湯殿に至り其後再此復座、瀬脇へ浜田  
玄達ノ事ヲ□□□□□□□といふ、□裏便所に小水通利あり、○浜田玄達四時後一  
診見帰ると、其前瀬脇□□□一診を□□□□□□、○本日夕方勃平来るを□□□□□  
□なしたる□□□、

四月廿五日『水』晴、本日紳六郎、早朝天城艦当番出直、一番手を執ること左之如し、  
一番岡浦太郎、二番瀬脇を見へさりし、三番鈴木良弼<sup>(知己カ)</sup>ノ智忌□村某、

四月廿六日『木』早朝ヨリ雨降ル、紳六郎より昨日九時出帆ノ報知り、早起灌腸、早  
朝灌腸、夫より元ノ脊中ニテ湯殿ニ至り、其後茶ノ間ニテ麵包一切、牛乳壺合、昇  
楼後裏後便所ニテ小水通利あり、□□了て床ニ□、○本日菊来る、清子ノ病氣を聞  
たるかなるへし、午餐酢あり、誰ノ土産ならん、晚餐ハ茄子ノ丸焼と定む、此夜

殊ニ□□り、

四月廿七日<sup>〔金〕</sup> 雨降る、朝より雨降る、元ノ脊中ニ而湯殿に至り、安扶ケ洗顔、灌水ニ至る、□□ニテ麵包一切レ、牛乳壺合等ニ而、昇楼就牀、此時小水不通ニ而裏所急三度行けと□□□計り□□、則本日紳六郎より書状来る、当港とあり所在処わからず、

四月廿八日『土』昨夜ノ地震より晴に赴けり、本日南風に替りあり、○本日佐藤浪江来訪、久し振なり、菓子ノ贈あり、本人ハ西脇悌二郎と□挨の由ナリ、兩人とも相識る以て何れ再び来たらんといふ□、

四月廿九日『日』本日晴、取向未定ナリ、或ハ芝居に行くといふ風聞あり、果して浅草座行く□□□□□、周、舛、安、其二三人あり、夕方帰宅、此日ハ浅家の芝居にて曾我十郎五郎ノ敵手□□を浜田淳氏ノ□長者ノ□□□□□□面白し、□□□□、

四月三十日『月』曇天、早起灌腸、夫より湯殿に至り洗顔、灌水、降て茶ノ間にて麵包一切、鰻鯉飯、昨日の残り并ニ牛乳壺合、其後昇楼通利あり、午餐ハニラノ煮物ニテ、了て表便所に至り通利十分ナリ、○本日きよ子、浜田ノ診察ヲ受く、十分快方の由なり、瀬脇も同し、今日瀬脇薬も受けたり、

五月一日『火』雨、或ハ午後ハ晴ルへし、早起灌腸、其後元に脊負れて湯殿に至り洗顔、灌水、其後茶ノ間にて麵包一切レ、牛乳壺合、○本日とち 子を生む、尚其数を□はす、其後一睡して再び裏便所至り、○其後瀬脇薬一服ニ用ス、□□なり、午餐ハ苺き鰻飯ナリ、其後表便所へ行き小水通利、後ポちの子を觀、後二階に帰る、瀬脇薬ナリ、此薬自然利水劑ニも違在らし、○午後勃平来ル、昨夜の佐野お茂さんノ話をなし、お茂さんノ話より色ニ再□□すへきと云う、亦母詞は左様之談話之後お砂の□□□□□□なり、

五月二日『水』晴、朝舛子、訪渡辺子、お砂の事に附てなり、其後伊東ノ姉さん則ち岡ノお富<sup>〔婆〕</sup>ん来る訪、艾餅を賜らる、中気の薬ナリ、本日八十八夜ナリ、○艾餅ハ余三切程食ふ、既に舛子帰りたると見へ、御帰りノ声聞へたり、

五月三日『木』晴、本日亦佳腸ニテ処腸灌腸せず、元に脊負ひて湯殿至、安に扶けにて洗顔、灌水、其茶ノ門<sup>〔間〕</sup>へ帰り、麵包一切、牛乳壺合、了て昇楼、○岡寡人<sup>〔親〕</sup>より器局一揃を岡君ノ形見として贈り□□□□□□礼を言ひナリ、○本日ハ東風□□なり、頗る<sup>〔間〕</sup>烈し、縁側□□し、○本日渡辺氏より蟄居ニ付答報あり、お沙夫婦も今迄之通なり、午後遅く勃平来たり、お沙も帰る事となりたり、東風烈し、

五月四日<sup>〔日〕</sup>『金』朝雨甚し、東風ナリ、早起、灌腸、通利あり、其後元ノ脊ニテ湯殿至り、安ノ扶ニテ洗顔、灌水、其後茶ノ間ニテ麵包一切、牛乳壺合、昇楼後通あり、○本日佐藤浪江再び来る、余病中を伺はんとの□□なり□、○寒し、羽織求めて衣

「西周日記」

る、

五月五日『土』晴、昨夜より晴と変ス、東風ニ而、午後お沙来ル、明六日一応大磯へ  
帰省する事ニ決ス、午前第八時瀛車なり、

五月六日『日』本日八時之瀛車<sup>(二重書下不談)</sup>□□□、大磯へ帰る、

五月七日『月』在大磯、午後三時掛電気、此時天気雨と変ス、暫くして高木お富さん  
来るといふ、未た不、電気後小水一過、晩飯ハ鰻魚飯一杯、□□、高木夫婦并□さ  
ん来たる、

五月八日『火』在大磯、本日為吉海水を汲ミに出掛く、早朝葉ノ灌腸、其後湯殿に行  
き洗顔、<sup>(灌)</sup>潮水、其後復復、<sup>(座)</sup>麵包一切レ、乳牛壺合、其後裏便所へ行く、其後安ニ誘  
れて裏便所ニ行く、小水通利あり、其後湿電用ゆ、両腕両手両脇等、了て塩湯呑ミ、  
再び便所に行く、能く通す、以テ只今に至る、○紳六郎より舂子へ答辞あり、きよ  
子の事ニ付養生専一となし、勃平の事に□□□□□□□□□□□□□□□□□□、午餐ハ  
鰻魚飯一杯のみ、高木カステイラを以而来訪、

五月九日『水』晴、本日朝灌腸、其後高木来ル、湯に行く、本日も昨日ノ湯未だ存在  
り、依而小便□□□□□□□□入浴す、天気ハ不宜□北風なれと自然に漸く点この  
雲あり、高木臨莊、お舂ハ一寸行く、佐土原ノ家扶来る、□□を贈、夫へ病氣療用  
代を十五円贈る、山本の御□□さんを伴ひ来る、午後高木ノ山へ松ノ木を植に行く  
といふ話あり、□□□□□□□□□□□□□□□□□□、時事新報より松岡寿□□□□□□  
□□、荒木卓爾、芳川越山、

五月十日『木』在大磯、半晴、早起、灌腸、大腸快通、其後放屁陸續ク、其後安ニ誘  
れて湯殿、洗顔、灌水、其後復座、復座、麵包一切、□乳壺合、了て裏便所坪、小  
水快通アリ、○本日朝より便所ノ方法を更め小水ハ坪を用ゆ、○天気ハ先曇天なり、  
然れるに時と漏れ日射て照らす事あり、○昨夜荒木卓次を司法大臣に<sup>(探カ)</sup>□用ヲ願はん  
とて、後藤へ案し尽力したり、今朝に至り全く任□に□れたりと暁り事此了せり、  
○午餐前シル粉二杯□、午睡中百足屋来ル、お富さん来ルか、

五月十一日『<sup>金</sup>木』昨夜一時過郡役所ノ側ニ火災あり、手水所ノ窓より能く見へたり、  
夫より舂子、安を連れ行て火災を見きはめん、為吉共ニ火事場へ行き、暫くして帰  
り来れり、本日ハ夫ノ火事騒より□□□□□□□□、午前高木姉さん□□□□□来  
る、再び灌腸、本日<sup>(二十字程不談)</sup>□□、其後入浴塩湯、其復座、□□□□□□、晩餐ハ  
国よしノ鰻鯉飯、海鼠、葡萄酒数杯、

五月十二日『<sup>土</sup>金』晴、朝灌腸、其後湯殿に到、安扶此、洗顔、灌水、復座、麵包一切、  
牛乳壺合、了て裏<sup>(新)</sup>裏便所行く、小水通利あり、本日高木ノ□ニテ□□□□□□□□  
□□鮭ノハムノ如し、○今日ハ江ノ島、烏□帽子岩能く見ゆ、○□□□紳六郎□左  
之通也、おきよは□□□□□紳六郎□□□□□□□□なるへし、□□□□□□□□  
□、○午餐□□ノ□□残飯、晩餐ハ鰻鯉なり、残惣鮭□□□ノ残少こニ而了ス、此



「西周日記」

五月二十二日『火』朝起、灌腸、麵包二切ヲ喫ス、牛乳壺合、其□□□□□にして裏便所へ行き□□□出の趣を覚、気分は清□、是にて病頓ニ癒に、早起灌腸〔一行半程不説〕□□、本日測らすも位一級を賜ふ、正三位ニ叙せられたり、□□□□□□□□、

五月廿三日『<sup>水</sup>土』早起灌腸、次湯殿に至り洗顔、灌水、次就座、麵包三切、牛乳三合、次裏便所へ行き小水通利あり、○晴、江ノ島兩岸能く見ゆ、其前石川達玄、西時〔續〕兩人来ル、賑かになる、其前入浴海水、上浴ノ時なり、

五月廿四日『木』早起、湯灌腸、其後湯殿、洗顔、灌水、却就座、包一切、牛乳壺合、□□□□□□□□依而抱きよせられて庭内を巡、気車通行ヲ見たり、帰路岡へ到り通行ス、○伊東祐之君より周叙位ノ祝、祝モノ差越ス、

五月廿五日『金』□四時〔廿六日冒頭ニ重書〕□□□□□□□□、

五月廿六日『土』晴〔以下、消線アリカ〕□□□□□□□□□□□□□□就なり、午飯□□□餅、本日午後フヲネルを衣る、□□□□□□□□□□□□、

五月廿七日『日』本日早起、湯殿へ行き洗顔、灌水、帰て就坐、麵包二切、牛乳、其後小水通利あり、本日砂子ノ病氣、勃平より届く、午餐ハ鰻鯉飯、お□□□、葡萄酒、□□□あり、

五月廿八日『月』晴、<sup>五</sup>□□湯殿に至り洗顔、灌水、其□□□□□□□ナリ、<sup>廿八日</sup>□□湯殿へ至り□□□、灌水、就座、麵一切、乳牛、□□□□□時雄を遣、其後余入寝、

五月廿九日『火』晴、早起、灌腸、通利無し、再度□□□湯殿へ行き、復座、麵包一切レ、本日より平電と為し湿乾電了、裏便所へ行く、小水通利あり、夫より寝に就キ、午飯前ほた餅、其他常の如し、

五月三十日『水』雨降る、早起、灌腸、其後湯ニ至り洗顔、灌水、其後就座、麵包一切、牛乳一合、其後裏便所ニ行き小水通利、□□能く開く、江ノ島二岩能く見ゆ、時雄□□之所へ行く、ヤシヤビシヤク実成るか如し、○本日ハ未雨降らされと雷火□格別掛地極れたり、永見おミちより写真を贈れり、岡吉寿からも、并ニお砂より焼□を贈れり、□の□□為なり、午餐ハ卵子漬なり、何分下利引続く□□□□□故に塩鰻鯉飯、寝る、

五月三十一日『木』快晴、本日三番瀛車に東京行、久振りにて電気持参之事、午前新橋停車場へ至る、夫より直ニ午飯を喫ス、□□□□□□□□□□□□□□、□ □ □、

六月一日『金』本日舂子、豊住へ行も留守、南風、楼上涼し、多少事あり、永見ノ子来、初てナリ、書面を持参杯など杯なり、○澄川正弥、五月廿七日□□□□□□□□□□、○永見おミち来る、

六月二日『土』本日午後勃平来ル、○□□□芝教育会□□□□より余ノ昇位を賀ス、相沢恭輔より昇位を賀ス、







『南山経済研究』掲載論文の中で示された内容や意見は、南山大学および南山大学経済学会の公式見解を示すものではありません。また、論文に対するご意見・ご質問や、掲載ファイルに関するお問い合わせは、執筆者までお寄せください。

(川崎 勝, E-mail: tanishi9n@jcom.home.ne.jp)